

八宗綱要鈔

龍谷大學編

中國佛學院

性仁

性



龍谷大學編

講本

八宗綱要鈔

凡 例

一、本書は、わが国における伝統的な仏敎敎学の基礎知識を得させるとともに、併せて漢文体の仏敎文献に親しませる意図の下に、学生用の敎科書として編纂したものである。

一、本文の校訂にあたっては、龍谷大学出版部より昭和七年に刊行した『講本八宗綱要鈔』（華光院円解が校訂した文政十年刊本を主とし異本を校訂したもの）があるので、これを底本として再び異本を校合し、不適当と思われるものは改めた。よって書名は既刊本と同様に『講本八宗綱要鈔』と名づけた。

一、句読点・訓点については、戦後、中学・高校において、漢文が必修科目から外された結果、漢文の読解力が一般に著しく低下している現状に鑑み、初学の者にも出来るかぎり読みやすいようにと細心の考慮を払い、返り点、送り仮名を附した。なお独特の読みかたをすべき字句には、平仮名をもって読み仮名をも附した。

一、章節の分科は、ほぼ既刊本のそれを踏襲したが、その名目について不適当と思われるものは多少これを改めた。なお上欄には本文に出てくる主要項目が一見してわかるようにこれを列ね、而も活字の大小によってこれを示して図表に代えることとした。

一、下欄の註には、地名・人名等で梵語の音表である場合は原語を示し、中国や日本の人名で出世年代の明らかなものには西暦年号を記し、また文中に引用せる経論釈の出拠の明確なもので、大正太蔵經に存するものはその卷数並びに頁数を挙げた。

本講 八宗綱要鈔目次

序 論

第一章 總 說

第一節 法門、大綱……………一

第二節 教說、統攝……………二

第二章 歷 史

第一節 概 說……………三

第二節 印 度……………四

第三節 中 國……………七

第四節 日 本……………八

第三章 八宗、概說

本 論

第一章 俱 舍 宗

第一節 對法藏、義……………一

第二節 造論、緣起……………二

第三節 翻譯、弘傳……………五

第四節 本論、宗旨……………五

第五節	本論，組織	一六
第六節	五位七十五法	一七
第七節	三乘，因果	一九
第八節	我空法有	一九
第二章	成實宗	

第一節	成實，名義	二〇
第二節	造論，譯傳	二〇
第三節	系譜，宗義	二一
第四節	賢聖，階位	二二
第五節	八十四法	二三

第三章 律宗

第一節	宗名，諸律	二三
第二節	翻譯，弘傳	二四
第三節	四分律，傳統	二五
第四節	律宗，相承	二六
第五節	律宗，分流	二七
第六節	止持，作持	二九
第七節	七衆，建立	三三
第八節	判教，宗致	三五
第四章	法相宗	

第一節	宗名、所依、經論	四一
第二節	三國、相承	四二
第三節	教判	四四
第四節	三乘、五性	四六
第五節	五位百法	四九
第六節	五重唯識	五一
第七節	四分	五一
第八節	三性、三無性	五二
第九節	菩提、涅槃	五四

第五章

三論宗

第一節	宗名、所依、論	五六
第二節	破邪顯正	五七
第三節	真俗二諦	五八
第四節	佛果、行位	五九
第五節	八不、解釋	六〇
第六節	二藏、三轉法輪	六一
第七節	三國、相承	六二

第六章

天台宗

第一節	宗名、所依、經論	六四
第二節	相承、系譜	六五

第三節	教判	六七
第四節	觀門、行法	七四
第七章	華嚴宗	

第一節	宗名、所依、經	七四
第二節	三國、相承	七五
第三節	教判	七七
第四節	五教、行位	八一
第五節	佛身、佛土	八三

第八章 眞言宗

第一節	宗名、所依、經	八四
第二節	三國、相承	八四
第三節	教判	八五
第四節	依正、二報	八六
第五節	六大、四曼、三密	八七
第六節	佛身、教主	八八

附說 禪宗並淨土宗

第一章	禪宗	八九
-----	----	----

第二章	淨土宗	九〇
-----	-----	----

八宗綱要鈔解說		九二
---------	--	----

講本 八宗綱要鈔 上

序論

第一章 總說

第一節 法門太綱

八万四千法門

大乘小乘

凝(140-131)
以觀山出家判
然(華嚴經疏
場)2冊,一生著
大本上在妙寶通。
其著述必有華
嚴之教章通判,一
五十五卷,120卷。
德述

問。佛敎有幾門耶。答。薄伽敎法、總有無量門。且舉大途、則八萬四千釋尊、一代五十箇年所說法、莫不攝盡。
問。何故法門數量必爾。答。爲欲對治一切衆生、八萬四千諸塵勞故。所以法門必有八萬四千數。
問。此等法門、爲唯約大乘、爲通小乘乎。答。大小二乘各立八萬四千法門也。如俱舍云。牟尼說法蘊數有八十千。已加之諸小乘經、多說法有八萬四千。此等並是小乘所

① 薄伽 (薄伽梵 bhagavat) ② 俱舍 (阿毘達磨俱舍論卷一 大正29.6a)
③ 牟尼 (釋迦牟尼 śākyamuni)

法門攝束

二藏

聲聞藏
菩薩藏

三藏

經藏
律藏
論藏

三學

戒學
定學
慧學

立如大乘教中盛談此義文據甚多不待言論故大小兩乘皆各立有八萬四千也。

第二節 教說統攝

問此等法門如何攝束。答法門雖多不過二藏及以三藏取攝諸教皆悉窮盡厥之五藏十藏十二分教等門亦不出三藏焉。

問且二藏者何。答一聲聞藏是小乘也。二菩薩藏是大乘也。大小兩乘各立有八萬四千者即此義也。此二藏義出智度論及莊嚴論諸家咸引以判大小。

問次其三藏者何。答一素坦覽藏古云此翻契經古單。

二毘奈耶藏古云此云調伏古云三阿毘達磨藏古云阿此。

云對法古云是論義也此云三藏如次詮於定戒慧學三。

藏是能詮教三學即所詮義以攝法義無有遺餘。

① 智度論（大智度論卷四 大正25.85a） ② 莊嚴論（大乘莊嚴經論卷四 大正31.09c）
③ 素坦覽（sūtra） ④ 毘奈耶（vinaya） ⑤ 阿毘達磨（abhidharma）

問。云何攝哉。答。如來一代對機授法。有機卽授處處散說。然說教分齊不過三藏。故結集之時諸聖者等結爲三藏。悉結集已以傳世間。

問。此之三藏通大小乘哉。答。爾通也。如莊嚴論等具明之。故於聲聞菩薩二藏各有三藏。經律論是也。

第二章 歷史

第一節 概說

問。此等教文古今傳通其相如何。答。如來在世不用典籍。隨聞依行卽得證益。如來滅後始有典籍傳通以開衆生眼目。依之迦葉波等結小乘三藏於畢鉢之窟場。阿逸多等集大乘教法於鐵圍之中間。于是摩訶迦葉乘聖法而繼玄綱。阿難尊者持契範而利群生。末田商那各提

① 如來 (tathāgata) ② 莊嚴論 (大乘莊嚴經論 卷四 大正31. 609c) ③ 迦葉波 (mahākāśyapaの畧) ④ 畢鉢 (畢鉢羅窟 pippalaguhā) ⑤ 阿逸多 (ajita) ⑥ 摩訶迦葉 (mahākāśyapa) ⑦ 阿難 (ānanda) ⑧ 末田 (末田地 madhyāntika) ⑨ 商那 (商那和須 śānavāsika)

諸聖稟持

部派ノ分裂

義綱、優婆塞多獨彰美號。佛滅百年瀉瓶無遺、法匠五師傳持有功。百歲已後諸聖亦出、互傳聖典各秉大法。然隨諸聖隱沒、法義非無滅。如阿難入定胎衣不測、商那入滅衆經隨隱、雖然遺餘不少。殘教寔多、故正法千年乃至末法、隨時秉持、隨處流傳。至于流傳諸處者、五印諸國乃至日域、其餘諸國不可稱計。各弘聖典、並興佛事。

第二節 印度

今且述天竺震旦日域三國弘傳之相者、傳聞如來滅後四百年間、小乘繁昌、異計相興、大乘隱沒、納在龍宮。就中一百年間、純一瀉瓶、百餘年後、異計競起。是以摩訶提婆徒吐五事之妄言、婆羅富羅未捨實我之堅情。正量經量諍大義而紛紜、西山北山起異見而猥綸。遂使四百年間、二十部競起、五印土中、乃至五百交諍。

凡各派三昧

四

① 優婆塞多 (upagupta) ② 摩訶提婆 (mahādeva) ③ 婆羅富羅 (犢子 vātsī-putra)

大乘ノ興起

馬鳴

龍樹

無著

五百年時、外道競興、小乘稍隱、況大乘耶。爰馬鳴論師、時將六百始弘大乘、起信論等是時、則造外道邪見卷、舌皆亡、小乘異部閉口咸伏。大乘深法再興、閻浮衆生機感已趣正路。次者有龍樹菩薩、六百季曆七百初運、紹于馬鳴獨步五印、所有外道無不皆摧、所有佛法皆悉傳持。三本華嚴獨含胸藏、四辯文河妙控江海、廣造論藏而青於藍、深窮佛法而寒於冰。凡斯二大論師、竝是高位大士也。馬鳴則古之大光明佛、今則示迹於第八地、龍樹則昔之妙雲相佛、今則寄位於初歡喜、俱本佛也。竝垂迹也。智辯超倫、其事宜哉。

爰大聖應現、化緣已盡、息化歸本。衆生業緣亦復雜起、邪見還深、依之九百年時、無著菩薩出於世間、利益衆生、夜昇都率現、粟慈氏晝降、閻浮廣教衆生、然衆生執深、尚不

① 馬鳴 (aśvaghoṣa) ② 閻浮 (閻浮提 jambudvīpa) ③ 龍樹 (nāgārjuna)
④ 無著 (aśaṅga) ⑤ 都率 (tuṣita) ⑥ 慈氏 (彌勒、慈尊 maitreya)

五部大論(漢)
 瑜伽師地論——法王性經論
 分別瑜伽論——現觀莊嚴論
 大乘莊嚴經論——
 辨中邊論——
 金剛般若經論——

世親
 訶梨跋摩

護清戒智
 法辨賢光

從化。故即請慈尊自降說法。慈尊應請降中天竺阿瑜遮那講堂說五部大論。如瑜伽論卷軸一百八萬法門深談奧義。一代教文莫不皆判。故名廣釋諸經論矣。是時衆生邪見悉伏。正路同趣。進入妙麗。慈尊昇天之後。無著繼化閻浮。

此時代中世親施化。始弘小乘廣制五百部論。後學大乘亦造五百部論。故世舉號千部論師。加之訶梨跋摩之成實論。衆賢論師之順正理。此時製矣。

如來滅後一千年間。大乘宗義未分。異計千一百年之後。大乘始起異見。故千一百年護法清辨諍空有。於依他之上。千七百歲戒賢智光論相性。於唇舌之間。如金剛與金剛似。巨石與巨石。厥餘諸大論師。龍智提婆青目羅喉羅陳那親勝火辨智月等。並是四依大士衆生所歸。古今挺

① 阿瑜遮那(阿瑜遮,阿瑜闍 ayojjhā,巴,ayodhyā,) ② 瑜伽論(瑜伽師論百卷 大正30)
 ③ 世親(vasubandhu) ④ 訶梨跋摩(harivarman) ⑤ 衆賢(saṅghabhadra)
 ⑥ 護法(dharmapāla) ⑦ 清辨(bhāvaviveka) ⑧ 戒賢(śīlabhadra)
 ⑨ 智光(jñānaprabha)

三藏、小草、中草、大草
二教下：大教下、小教下
——《華嚴經·華嚴經疏》

三藏、傳譯

八宗、成立

出蘭菊諍美。諸宗各取以爲祖匠。衆生互憑以爲上首。如此論師古來繼出。照燭五印。拔濟衆生。是爲天竺弘通之相也。

第三節 中國

如震旦國者。如來滅後一千年末。迦騰始來竺蘭。次至始傳三寶。漸弘五乘。自爾已來。漢·魏·晉·宋·齊·梁·陳·隋·唐·宋。此等朝中。三藏諸師各傳佛教。互弘聖法。至如翻經。三藏或從西至此。或從此往還。大小三藏皆悉翻傳。顯密二宗互各弘通。是以羅什·玄奘之窮翻經妙也。果感韋陀之天告矣。覺賢。曇無之稱傳譯美也。遂得海龍之神護矣。其餘高僧崇佛法之者。或金陵淨影。月澄。于八不顯實之水。或南岳天台。花鮮。于一心三觀之藺。慈恩。淄州風。涼。于三草二木之梢。香象清涼。玉明。于十玄六相之臺。加之光

此典故出在《道宣律師感通錄》(大·五·二·四三七下) 梵·羅·譯·之·妙

① 迦騰 (迦葉摩騰 kāsyaṃamātaṅga) ② 竺 (印度) 竺 (法蘭 dharmarakṣa) ③ 韋陀 (veda) ④ 覺賢 (佛陀跋陀羅 buddhabhadra) ⑤ 曇無 (曇無讖 dharmarakṣa)

法皇弟（使金）
（實德太子）

寶二師、窮對法、而明明、礪宣兩家、整戒律、而歷歷、況於成
 實之大義、惠影獨麗、眞言之密教、行果俱朗乎。自外、諸德
 不可稱計、竝弘大道、互通佛教、威德巍巍、數感天給、妙解
 蕩蕩、頻見心佛、如此高僧、古今之間、多哉大哉、豈言語之
 所及乎。此謂震旦弘傳之相也。

第四節 日本

日本傳來

聖德太子

至如日本國者、人王第三十代、欽明天皇、御宇、第六年乙
 丑當梁大同八年十一月、從百濟國、聖明王、獻金銅、釋迦像一軀、及
 幡蓋若干、經論、天皇歡喜、即見崇之、于時臣下雖不敬之、
 遂建寺宇、安置佛經、其後漸漸三寶興建、第三十一代、
 敏達天皇元年壬辰正月一日、聖德太子誕生、和國更弘、
 佛法、廣滿天下、伽藍諸處、度人無量、守屋逆臣被定慧、弓
 箭、高麗兩僧得弘通、稱譽降伏邪見、紹隆三寶、拔濟衆生、
 特是慈心慧眼

① 欽明天皇第六年（A.D. 545） ② 聖德太子（572—622）